

# 衆議院法務委員会ニュース

平成 23.12.2 第 179 回国会第 3 号

12 月 2 日（金）第 3 回の委員会が開かれました。

## 1 裁判所の司法行政、法務行政及び検察行政、国内治安、人権擁護に関する件

- ・平岡法務大臣、中塚内閣府副大臣、滝法務副大臣、政府参考人及び最高裁判所当局に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 大口善徳君（公明）

- ・近時、著名な大企業の不祥事が相次いでいるが、法制審議会では会社法制の見直しに向けて審議がなされている。法制審議会での現在の検討状況、今後のスケジュールはどうなっているのか、法務大臣に伺いたい。
- ・日本の企業では取締役がほとんど内部者であり、なかなか取締役、監査役によるチェックがきかない。法制審議会でも議論されている社外取締役の選任の義務付けについて、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・法的支援が必要な被災者に対して、現行の総合法律支援法に基づく民事法律扶助では支援が難しい場合が出ている。そこで新たな法的支援事業を創設する必要があると考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・少年法改正を受け被害者等による少年審判の傍聴が可能となったが、その実施状況はどうなっているか。申出があった件数、傍聴を許した件数等を最高裁当局に伺いたい。

### 辻 惠君（民主）

- ・検察の在り方検討会議において検察改革について議論されたが、福井事件再審開始決定についての新聞記事において、検察幹部が不満をあらわにしたと掲載されたことについて、このような態度が許されるのか、法務副大臣の所見を伺いたい。
- ・自白の信用性に関して、司法研究報告書（自白の信用性）に有罪事例として布川事件及び名張毒ぶどう酒事件が挙げられているが、この記載の見直しについて、最高裁当局に伺いたい。
- ・2004年 8 月に宇都宮において自白調書のみを証拠として公判請求され無罪判決がなされた事案があったが、この

事案について訴追作業に問題はなかったのか、また担当の検察官に対する指導について、法務副大臣に伺いたい。

### 柴山昌彦君（自民）

- ・株式会社オリンパスの損失隠し問題について、会社法上の本質的、根源的な問題は何か、また、「社員」とは法律的にどういう概念であるか、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・法務大臣の元大臣秘書官が、公設秘書給与と大臣秘書給与を二重に受給していたことについて、大臣秘書官の給与は辞職後に返還可能であるはずだが、返納させることを検討しないのか。法務大臣の見解を伺いたい。
- ・12 月 1 日に発生した象印マホービン元副社長殺人事件のような凶悪事件に対する法務大臣の所感を伺いたい。
- ・オウム真理教による地下鉄サリン事件の被害者遺族である高橋シズエ氏や犯罪被害者団体の方々と面会回数等について、法務大臣に伺いたい。

### 城内 実君（国守）

- ・新たな人権救済機関の設置についての検討の進捗状況について、法務大臣に伺いたい。
- ・新たな人権救済機関は、当初は野党が受け入れやすい形で設置し、その後権限を強化していくことを考えているのではないかと、法務大臣に伺いたい。
- ・新たな人権救済機関の委員の人事は国会同意人事であるので、時の政権・政府からの独立性は弱く、それなのに、強力な権限を持った国家行政組織法の 3 条委員会になるのではないかと、法務大臣の所見を伺いたい。

## 2 裁判所法の一部を改正する法律案（内閣提出第 12 号）

- ・平岡法務大臣から提案理由の説明を聴取しました。
- ・大口善徳君（公明）提出の修正案について、提出者大口善徳君（公明）から趣旨説明を聴取しました。